

# 1 人口の動き

平成19年1月1日現在の兵庫県推計人口は559万6,540人である。

昭和22年から300万人台で推移してきた人口は、昭和36年に400万人を、昭和51年には500万人を超え、平成7年1月には552万人に達したが、阪神・淡路大震災直後の平成7年国勢調査では、540万人に落ち込んでいた(表1、図1参照)。

平成19年1月1日現在の本県人口は全国第8位、また全国の人口約1億2,775万人(総務省「人口推計月報(H19.1.1 現在概算値)」)に占める割合は4.38%である(表2、図2参照)。

表1 兵庫県の人口の推移

(国勢調査人口)	
年次	人口(人)
昭和22年	3,057,444
25年	3,309,935
30年	3,620,947
35年	3,906,487
40年	4,309,944
45年	4,667,928
50年	4,992,140
55年	5,144,892
60年	5,278,050
平成2年	5,405,040
7年	5,401,877
12年	5,550,574
17年	5,590,601
19年	5,596,540

平成19年1月1日現在推計人口

図1 兵庫県の人口の推移

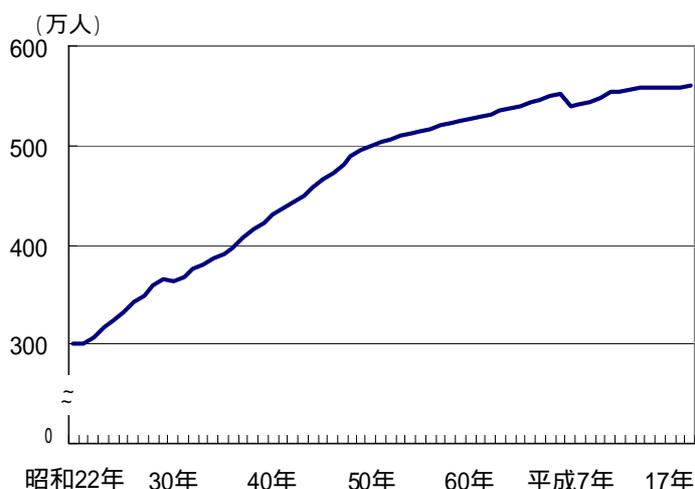
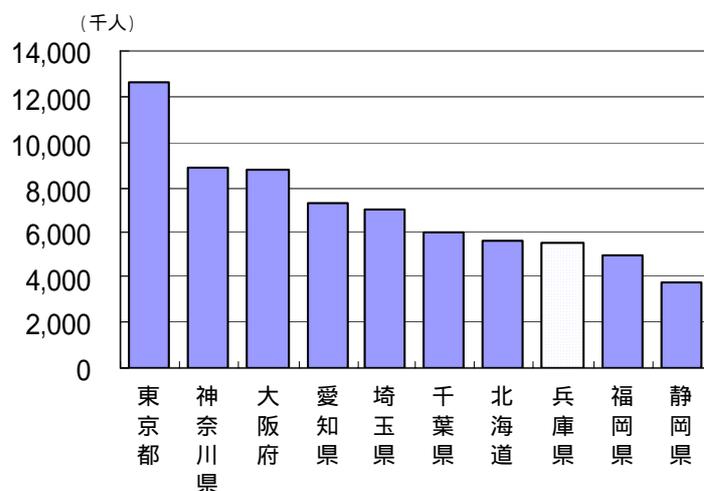


表2 主な都道府県の人口

順位	都道府県名	人口(人)
1	東京都	12,659,721
2	神奈川県	8,848,166
3	大阪府	8,824,671
4	愛知県	7,309,285
5	埼玉県	7,084,082
6	千葉県	6,083,156
7	北海道	5,628,338
8	<b>兵庫県</b>	<b>5,596,540</b>
9	福岡県	5,059,514
10	静岡県	3,795,166

図2 主な都道府県の人口



(各府県人口は平成19年1月1日現在推計人口による。北海道は平成18年12月末日現在住民基本台帳人口による。)

## 2 人口増減の動き

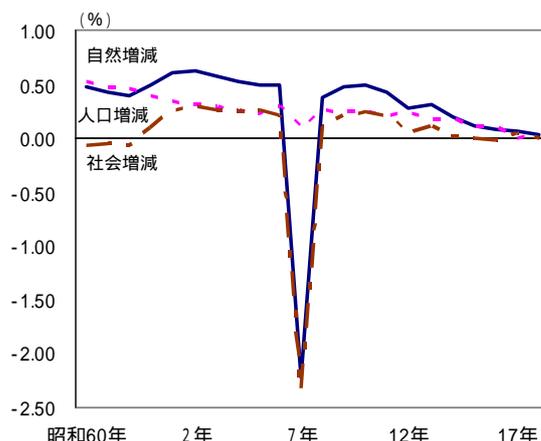
平成18年の人口の動きを見ると、2,341人増加し、その内訳は自然増減(出生 - 死亡)で2,287人、社会増減で54人増加した。

人口増減率は前年より0.02ポイント下降して0.04%の増加となった。その内訳は自然増減によるものが主因で、社会増減による影響はほとんどみられなかった(表3、図3参照)。

表3 人口増減の推移

区分 年次	推計(推定)人口 (各年1月1日) 人	増減数			増減率		
		人口増減 人	自然増減 人	社会増減 人	人口増減 %	自然増減 %	社会増減 %
昭和60年	5,263,621	24,834	27,849	-3,015	0.47	0.53	-0.06
61年	5,285,492	22,819	25,510	-2,691	0.43	0.48	-0.05
62年	5,308,299	21,314	24,382	-3,068	0.40	0.46	-0.06
63年	5,329,613	26,665	21,089	5,576	0.50	0.40	0.10
平成元年	5,356,278	32,824	18,095	14,729	0.61	0.34	0.27
2年	5,389,102	33,505	17,381	16,124	0.62	0.32	0.30
3年	5,413,175	30,614	15,859	14,755	0.57	0.29	0.27
4年	5,443,739	28,753	14,886	13,867	0.53	0.27	0.25
5年	5,472,492	26,987	12,824	14,163	0.49	0.23	0.26
6年	5,499,479	27,210	15,772	11,438	0.49	0.29	0.21
7年	5,526,689	-123,308	5,171	-128,479	-2.23	0.09	-2.33
8年	5,403,381	20,528	14,349	6,179	0.38	0.27	0.11
9年	5,423,909	25,473	13,535	11,938	0.47	0.25	0.22
10年	5,449,382	26,983	13,853	13,130	0.50	0.25	0.24
11年	5,531,269	24,047	12,053	11,994	0.43	0.22	0.22
12年	5,555,316	15,370	12,852	2,518	0.28	0.23	0.05
13年	5,555,809	17,272	10,561	6,711	0.31	0.19	0.12
14年	5,572,913	11,419	10,231	1,188	0.20	0.18	0.02
15年	5,584,332	6,748	6,715	33	0.12	0.12	0.00
16年	5,591,080	4,384	5,397	-1,013	0.08	0.10	-0.02
17年	5,595,464	3,346	689	2,657	0.06	0.01	0.05
18年	5,593,979	2,341	2,287	54	0.04	0.04	0.00
19年	5,596,540						

図3 人口増減率の推移



注) 推計人口は国勢調査の結果を基礎として算出しているため、各年当該の人口増減数を加えても次年の人口に一致しない年がある。平成11年、12年は推定人口。増減率は各年1月1日現在推計(推定)人口を基礎に用いた。

## 3 出生数及び死亡数の動き

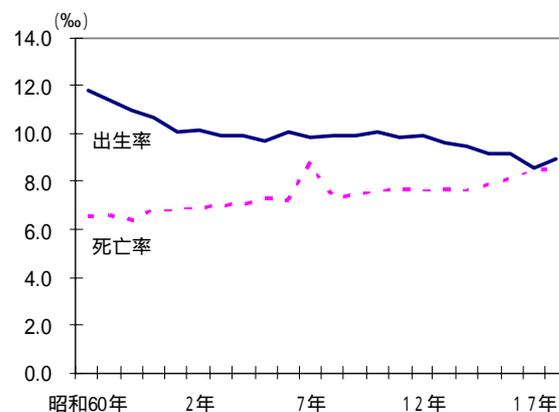
平成18年の出生者数は4万9,573人で、うち男2万5,496人、女2万4,077人となった。出生率(人口千人当たり)は8.9‰で、前年より0.3ポイント上昇した。

一方、死亡者数は4万7,286人で、うち男2万5,142人、女2万2,144人となった。死亡率(人口千人当たり)は8.5‰で、前年と同率であった(表4、図4参照)。

表4 年次別出生率及び死亡率の推移

区分 年次	出生				死亡			
	総数 人	男 人	女 人	出生率 ‰	総数 人	男 人	女 人	死亡率 ‰
昭和60年	62,045	31,656	30,389	11.8	34,196	18,455	15,741	6.5
61年	60,239	31,013	29,226	11.4	34,729	18,653	16,076	6.6
62年	58,527	29,903	28,624	11.0	34,145	18,346	15,799	6.4
63年	57,354	29,491	27,863	10.7	36,265	19,345	16,920	6.8
平成元年	54,466	28,296	26,170	10.1	36,371	19,593	16,778	6.8
2年	54,743	27,981	26,762	10.1	37,362	20,019	17,343	6.9
3年	54,013	27,840	26,173	9.9	38,154	20,488	17,666	7.0
4年	53,939	27,758	26,181	9.9	39,053	21,065	17,988	7.1
5年	53,021	27,190	25,831	9.7	40,197	21,712	18,485	7.3
6年	55,689	28,599	27,060	10.1	39,887	21,445	18,442	7.2
7年	52,755	27,061	25,694	9.8	47,564	24,650	22,914	8.8
8年	53,813	27,438	26,375	9.9	39,464	21,243	18,221	7.3
9年	53,892	27,608	26,284	9.9	40,357	21,747	18,610	7.4
10年	55,403	28,368	27,035	10.1	41,550	22,632	18,918	7.6
11年	54,556	28,000	26,556	9.8	42,503	22,953	19,550	7.7
12年	55,197	28,164	27,033	9.9	42,345	22,843	19,502	7.6
13年	53,324	27,375	25,949	9.6	42,763	23,060	19,703	7.7
14年	52,745	26,998	25,747	9.5	42,514	23,088	19,426	7.6
15年	51,079	26,290	24,789	9.1	44,364	23,835	20,529	7.9
16年	50,625	25,962	24,663	9.1	45,228	24,374	20,854	8.1
17年	47,951	24,540	23,411	8.6	47,262	25,294	21,968	8.5
18年	49,573	25,496	24,077	8.9	47,286	25,142	22,144	8.5

図4 年次別出生率及び死亡率の推移



注) 出生率及び死亡率は、各年10月1日現在の推計(推定)人口又は国勢調査による人口の基礎を用いた。

#### 4 地域別人口の増減

平成18年中の人口増減率を地域別にみると、増加したのは阪神南地域をトップに、阪神北地域、神戸地域の順で、その他の地域はすべて減少し、淡路地域、丹波地域、但馬地域、北播磨地域、西播磨地域、中播磨地域、東播磨地域の順となった。

神戸地域は、中央区で1.57%、西区で0.95%の増加をしたほか、東灘区、灘区、兵庫区、北区でも増加したが、須磨区で0.91%の減少をしたほか、垂水区、長田区でも減少し、地域全体としては前年よりも0.13ポイント下降したものの、0.20%の増加となった。

阪神南地域は、尼崎市が減少したものの、西宮市で1.28%、芦屋市で1.11%の増加をし、地域全体としては前年よりも0.15ポイント上昇し、0.63%の増加となった。

阪神北地域は、猪名川町で2.25%の増加をし、県下市区町でトップとなったほか、伊丹市、三田市、宝塚市でも増加をしたが、川西市で0.12%の減少をしたため、地域全体としては前年よりも0.12ポイント下降したものの、0.21%の増加となった。

東播磨地域は、明石市と播磨町でそれぞれ0.04%の増加をしたが、稲美町で0.51%の減少をし、高砂市、加古川市でも減少したため、地域全体としては前年よりも0.13ポイント上昇したものの、0.04%の減少となった。

北播磨地域はすべての市町で人口が減少し、地域全体としては前年よりも0.19ポイント下降し、0.64%の減少となった。

中播磨地域は、福崎町で0.41%の増加をしたが、神河町で1.25%の減少をしたほか、市川町、姫路市でも減少し、地域全体としては前年よりも0.02ポイント下降し、0.07%の減少となった。

西播磨地域は、太子町で0.90%の増加をしたが、宍粟市で1.07%の減少をしたほか、佐用町、上郡町、相生市、赤穂市、たつの市でも減少したため、地域全体としては前年よりも0.13ポイント上昇したものの、0.41%の減少となった。

但馬地域は、すべての市町で人口が減少し、地域全体としては前年よりも0.03ポイント下降し、1.00%の減少となった。

丹波地域は、篠山市、丹波市とも人口が減少し、地域全体としては前年よりも0.29ポイント下降し、1.02%の減少となった。

淡路地域は、すべての市で人口が減少し、地域全体としては前年よりも0.08ポイント下降し、1.19%の減少となり、県下地域別で減少率が最も大きかった(表5参照)。

第5表 地域別人口の増減(平成18年)

区分 地域	増 減 数			増 減 率		
	人口増減 人	自然増減 人	社会増減 人	人口増減 %	自然増減 %	社会増減 %
県 計	2,341	2,287	54	0.04	0.04	0.00
神 戸	3,075	236	2,839	0.20	0.02	0.19
阪 神 南	6,419	2,094	4,325	0.63	0.21	0.42
阪 神 北	1,468	1,276	192	0.21	0.18	0.03
東 播 磨	-272	1,114	-1,386	-0.04	0.16	-0.19
北 播 磨	-1,877	-433	-1,444	-0.64	-0.15	-0.50
中 播 磨	-391	640	-1,031	-0.07	0.11	-0.18
西 播 磨	-1,183	-581	-602	-0.41	-0.20	-0.21
但 馬	-1,915	-689	-1,226	-1.00	-0.36	-0.64
丹 波	-1,181	-579	-602	-1.02	-0.50	-0.52
淡 路	-1,802	-791	-1,011	-1.19	-0.52	-0.67

## 5 地域別人口の構成

地域別の人口構成比は、神戸地域が27.3%で最も高く、以下、阪神南地域18.4%、東播磨地域及び阪神北地域の12.8%と続いている(表6、図5・6参照)。

表6 地域別人口(平成19年1月1日現在)

地域	人口(人)
県計	5,596,540
神戸	1,529,867
阪神南	1,027,108
阪神北	715,753
東播磨	718,149
北播磨	289,736
中播磨	583,837
西播磨	279,032
但馬	189,105
丹波	114,699
淡路	149,254

図5 地域別人口構成比(平成19年1月1日現在)

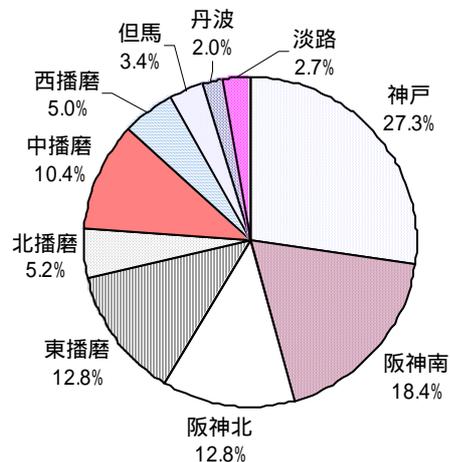
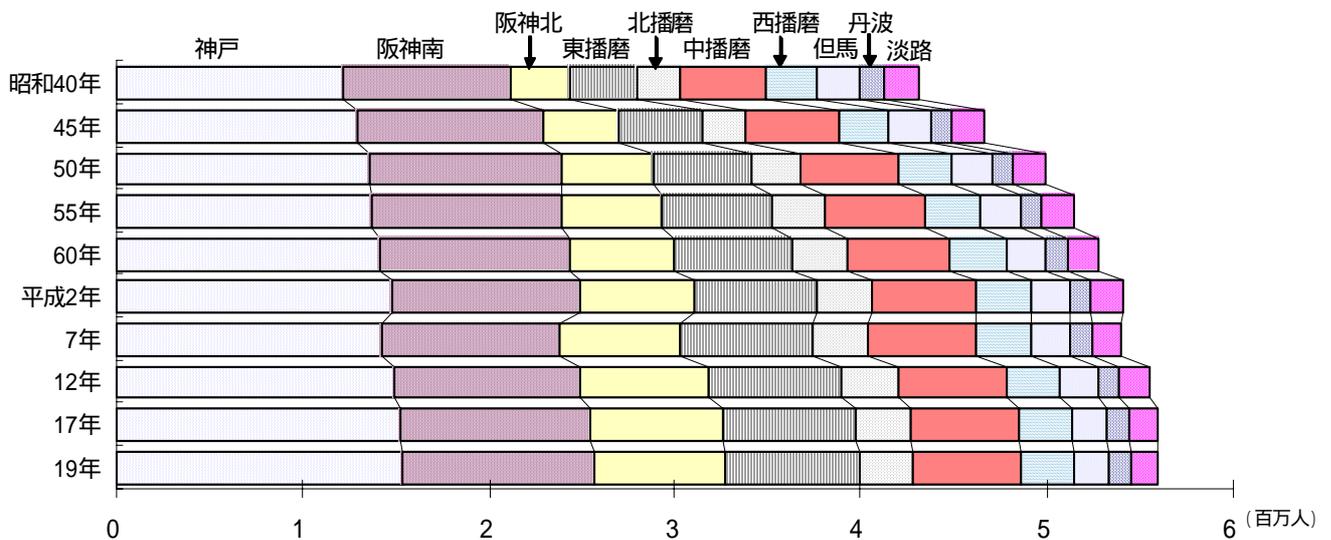


図6 地域別人口構成比の推移



(各年国勢調査人口による。平成19年は1月1日現在推計人口による。)

### (参考) 地域区分

- 神戸地域 神戸市
- 阪神南地域 尼崎市、西宮市、芦屋市
- 阪神北地域 伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
- 東播磨地域 明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
- 北播磨地域 西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町
- 中播磨地域 姫路市、市川町、福崎町、神河町
- 西播磨地域 相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、太子町、上郡町、佐用町
- 但馬地域 豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
- 丹波地域 篠山市、丹波市
- 淡路地域 洲本市、南あわじ市、淡路市

## 6 市町別人口

平成19年1月1日現在の人口を市町別に見ると、神戸市が152万9,867人と最も多く、県全体の27.3%を占めている。次いで、姫路市53万6,255人、西宮市47万2,864人、尼崎市46万2,200人と続いている。郡部では、播磨町が3万3,571人と最も多く、次いで、太子町3万2,883人、稲美町3万1,733人と続いている。

また、人口が少ないのは、神河町1万2,870人、市川町1万3,967人、新温泉町1万7,175人の順になっている。市部では、養父市2万7,831人、相生市3万2,282人、朝来市3万4,523人の順になっている。

この一年間の人口の動きを見ると、県内41市町のうち人口が増加したのは11市町、減少したのは30市町である。

人口増減率をみると、市部では、3年連続で西宮市が最も高く、芦屋市、伊丹市など7市で増加し、養父市、洲本市など22市で減少した。郡部では、猪名川町、太子町、福崎町、播磨町の4町で増加し、香美町、新温泉町など8町で減少した。

理由別に増減率を見ると、自然増減は、市部では西宮市、伊丹市など14市で増加し、淡路市、養父市など15市で減少した。郡部では太子町、播磨町など4町で増加し、香美町、佐用町など8町で減少した。社会増減は、市部では西宮市、芦屋市など4市で増加し、養父市、洲本市など25市で減少した。郡部では猪名川町、太子町、福崎町の3町で増加し、新温泉町、香美町など9町で減少した(表7、図7参照)。

表7 人口増減率の高い市町(平成18年)

市部		人口増減		自然増減		社会増減	
区分	順位	市名	率(%)	市名	率(%)	市名	率(%)
増加	1	西宮市	1.28	西宮市	0.35	西宮市	0.93
	2	芦屋市	1.11	伊丹市	0.33	芦屋市	0.90
	3	伊丹市	0.23	宝塚市	0.23	神戸市	0.19
減少	1	養父市	-1.52	淡路市	-0.69	養父市	-0.93
	2	洲本市	-1.30	養父市	-0.59	洲本市	-0.86
	3	淡路市	-1.20	篠山市	-0.55	加西市	-0.82

郡部		人口増減		自然増減		社会増減	
区分	順位	町名	率(%)	町名	率(%)	町名	率(%)
増加	1	猪名川町	2.25	太子町	0.42	猪名川町	2.19
	2	太子町	0.90	播磨町	0.09	太子町	0.48
	3	福崎町	0.41	福崎町	0.07	福崎町	0.34
減少	1	香美町	-1.52	香美町	-0.68	新温泉町	-1.03
	2	新温泉町	-1.47	佐用町	-0.67	香美町	-0.84
	3	神河町	-1.25	神河町	-0.46	神河町	-0.79

## 7 月別人口の動き

平成18年中の月別人口増減状況を見ると、1月、2月、3月、6月、9月に減少が見られるが、他の月は増加している。

理由別に見ると、自然増減は1月、2月、3月、12月に減少しているが、他の月は増加している。社会増減は例年同様3月に大きく減少し、翌4月に大きく増加するパターンとなっている(表8、図8参照)。

図8 月別人口の増減数(平成18年)

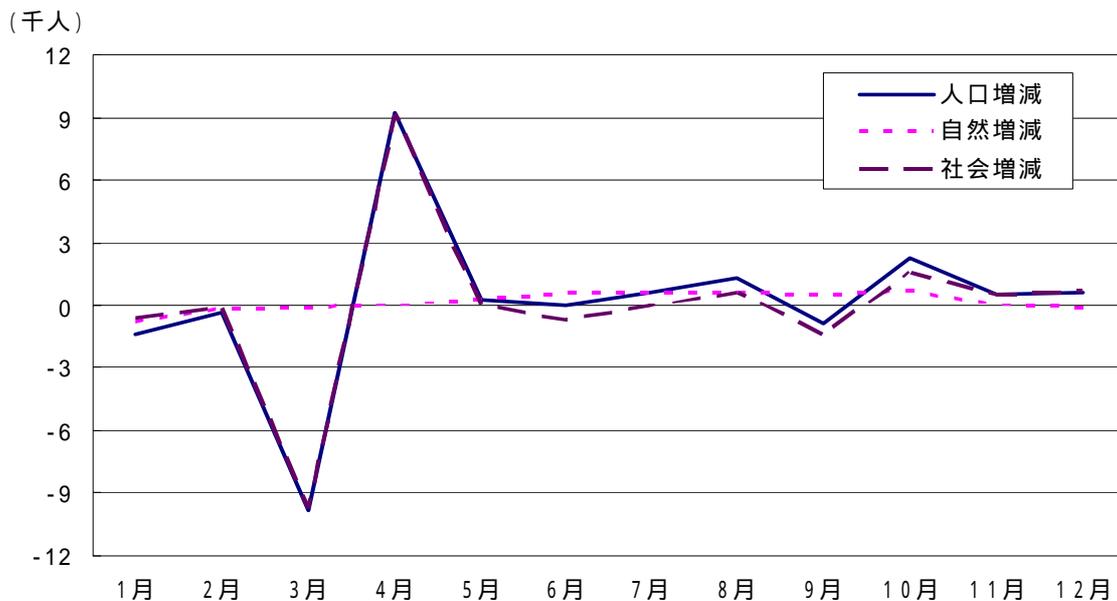


表8 月別人口の増減数(平成18年)

	人口増減	自然増減	社会増減
	人	人	人
1月	-1,470	-848	-622
2月	-398	-252	-146
3月	-9,869	-140	-9,729
4月	9,186	60	9,126
5月	262	269	-7
6月	-40	662	-702
7月	632	649	-17
8月	1,315	657	658
9月	-878	556	-1,434
10月	2,334	764	1,570
11月	605	23	582
12月	662	-113	775